

スポーツとメディアの関係性 ～2001 年世界水泳選手権のテレビ放送を通して～

Relationship of Sports and the media ~by television broadcast world swim championship in 2001~

1K04B012-4

池田 拓也

指導教員

主査 リー・トンプソン先生

副査 奥野景介先生

【目的】

「スポーツ」と「メディア」は昔から密接に関係をしてきている。しかし、ただ「関係」しているだけではなく、「スポーツ」と「メディア」は相互に影響をし合ってきている。メディアはスポーツに、スポーツはメディアにそれぞれ何らかの影響を与えてきた。

そこで私は、スポーツとメディアの関係や、歴史、スポーツとメディアが相互に影響されてきた歴史、メディアイベントとしてのスポーツなどを参考にし、特に、現代の水泳競技である競泳とメディアの関係にスポットを当て、スポーツとメディアの相互の影響力を明らかにしていく。

2001 年にテレビ朝日系列で放送された世界選手権がきっかけとなり、2001 年以前とは大きく水泳界を取り巻くマスメディアを中心とした環境が変わったと漠然と感じた。そこで、本研究において 2001 年の世界水泳選手権の放送の前後で水泳(競泳)のメディアの扱い方が変化してきたかを明らかにし、メディアがスポーツに与える影響について論じていきたい。

【方法】

本論では、2001 年の世界水泳選手権の放送により、雑誌「Number」における競泳の記事の変動と、新聞のテレビ欄における競泳の扱いの変動があったかを見ていく。

① 雑誌「Number」(Sports Graphic Number)

検証の対象を(A)競泳に関係するすべての記事、(B)北島康介に関係する記事の 2 つとし、検証の項目は(1)記事の本数、(2)ページ数の枚数、(3)写真の枚数、(4)写真の面積の 4 項目とした。それぞれ、競泳を扱ったもの、北島康介を扱ったものをカウントした。尚、ページ数のカウントは対象ページの半分にも満たなかった場合はカウントしないものとする。

② 新聞のテレビ欄

検証対象は、世界水泳選手権の行われている期間の朝日新聞のテレビ欄である。年号、大会期間中に競泳関係の言葉をテレビ欄内に扱ったテレビ局、大会期間中にテレビ欄で名前が扱われた選手と、その回数、その年のテレビ欄上での傾向を抽出し、これらのデータを年表のようにまとめ、検証する。

〔

結果〕

① 雑誌「Number」(Sports Graphic Number)

(A) 競泳に関係するすべての記事

1994 年と 1998 年では比較的文章数は多くなく、競

泳はあまり関心をもたれていないということが分かる。2001 年には記事数が上がり、競泳が関心を持たれ始め、注目されていると考えられる。その後も、その以前よりか記事数は増え、安定して関心をもたれていることがわかる。

(B) 北島康介に関係する記事

記事数を見たら、2003 年から写真の数は急激に増加していることがわかる。競泳だけでなく北島康介という選手が世間から関心を持たれ、注目されているかがこの結果からもわかる。

② 新聞のテレビ欄

テレビ欄だけを見ていると、まだまだ競泳の国際大会のテレビ放送、及び競泳に対しての記事数は少ない。また、日本人選手の名前登場回数よりも、海外の選手の方が多く登場している傾向がある。

【考察】

雑誌に扱われる頻度が増加をするだけ、世間の競泳に対する認知度、関心、興味は高まってきているのではない。しかし、逆に敗戦で期待度や関心度が下がってしまうこともある。また、メディアによりスター選手が形成され、水泳界においても変化をもたらしている。それは、外国人選手やメダリストであることが多い。このことが、社会人での現役選手の増加に繋がっており、個人の競技力とともに、日本の水泳のレベルアップに貢献しているとも言えるだろう。

しかし、メディアの与える影響には、いい影響だけでなく、悪い影響もある。それは、選手のコンディショニングでの悪影響やメンタル面への悪影響などである。これら副産物ともいえる影響の可能性にスポットを当てないでいることが問題なのではないだろうか。

競泳がメディアに扱われる際は、的確な判断をしつつ付き合っていくことが求められていくだろう。

【まとめ】

競泳がメディアに扱われることにより、社会人選手の増加や、世界水泳選手権での日本人選手の獲得メダル数の増加をもたらした。つまり競泳は、メディアによっていい影響を受けたと考えられる。しかし、逆にコンディショニングやメンタルの面で選手に悪影響を及ぼしている。

スポーツとメディアが互いに上手く利用し合い成長することが今求められている。それが、スポーツとメディアの理想的な関係性の一つの形なのではないか。